

5. 児童思春期のメンタルヘルスの診療能力向上に関する事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

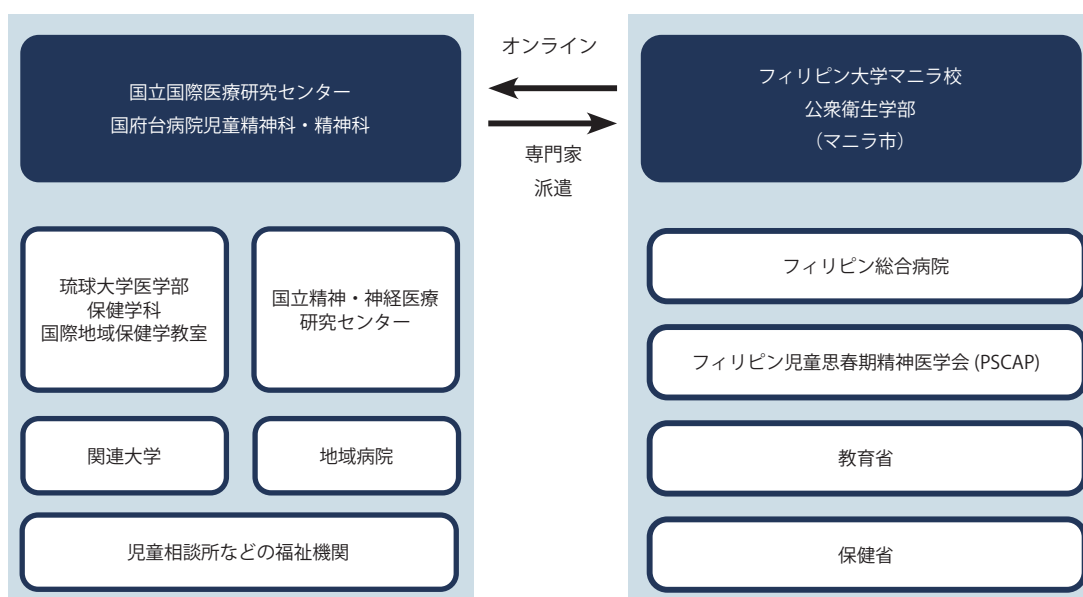
フィリピン共和国は人口が 100,981,437 人、世界で最も災害の多い国のひとつである。2019 年に 精神保健法が施行され、今後精神障害者の人権保護に関する関心が高まると予想される。しかしながら、精神科病院は 5 施設、精神科病棟を持つ総合病院が 14 施設しかなく、外来がある施設は 46 施設であり、人口 10 万人あたりの精神保健に携わる専門職はわずか 2.0 名である。また、過去 20 年間で幼児の死亡率は低下し、人口の約 37% が 14 歳未満である特徴もある（WHO AIMS、2007）。実際には、5 歳未満の子供の約 27% が栄養不良であり、精神的な影響を受ける子も懸念されている（Cagande, 2013, Larson LM., 2017）。フィリピンでは子どもの 16% が精神障害を抱えていたと報告（WHO AIMS、2007）があるにも関わらず、児童思春期に関与している施設は外来施設のうち 28% のみであり、デイトリートメント施設では 7%、在宅ケア施設のベッドの 3% しかない。また、2 つの精神病院においては児童思春期のためのベッドは 2% しかない現状である。よって、今後ますます子どものメンタルヘルスに関する診療ニーズが高まるものと考えている。

【事業の目的】

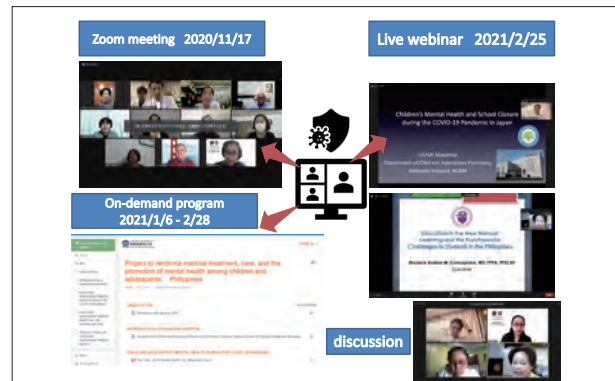
フィリピン児童精神医学会、フィリピン精神医学会、フィリピン精神保健協会、フィリピン総合病院、国立精神保健センターと連携し、自閉症など児童思春期特有な精神疾患の診断技術、薬物療法、心理社会的治療および災害精神医学に関するコミュニティメンタルヘルスに関する研修会の開催を行い、その診療能力の向上を目指す。特に精神疾患の予後規定因子である発症から受診までの期間を短くすることを、地域の診療能力向上とともに目指している。

【研修目標】

- ・ フィリピン共和国における児童精神医学に関する知識の普及
- ・ コロナ禍における児童精神医学に関する知識の習得の普及
- ・ 教師を対象としたスクールメンタルヘルスに関する知識の普及



1年間の事業内容					
2020年	5月-10月	11月	12月	1月	2月
研修内容 (日本人専門 家派遣、本邦 研修、現地研 修、遠隔シス テムを用いた 研修の期間・ 参加者数など)	オンデマ ンド研修の内 容をメール にてフィリ ピン大学など と検討。	内容: オンデ マンド研修の 内容決定 (ZOOM) 期間: 1日 参加者: 7名	オンデマ ンド教材 用の動画作 成	オープニングセッション (ZOOM LIVE) 期間: 1日 参加者: 6名 Moodleを利用した研修 期間: 約2ヶ月 参加者: 教師、心理士、 ソーシャルワーカー、看 護師、保健師、医師など の202名登録(47名が 視聴終了)。プレテスト の正答率が42.9%であ り、ポストテストで理 解度は83.3%であり、理 解度が40.4%向上した。	内容: 研修に關 するディスカッ ション(ZOOM) 期間: 1日 参加者: 研修生5 名 ZOOMを利用した 研修 内容: COVID-19に 関する教育・医 療体制に関する 研修 期間: 1日 参加者: 研修生7 名に加えて、フィ リピン国内の医 療・教育・福祉関 係者15名も参加 した



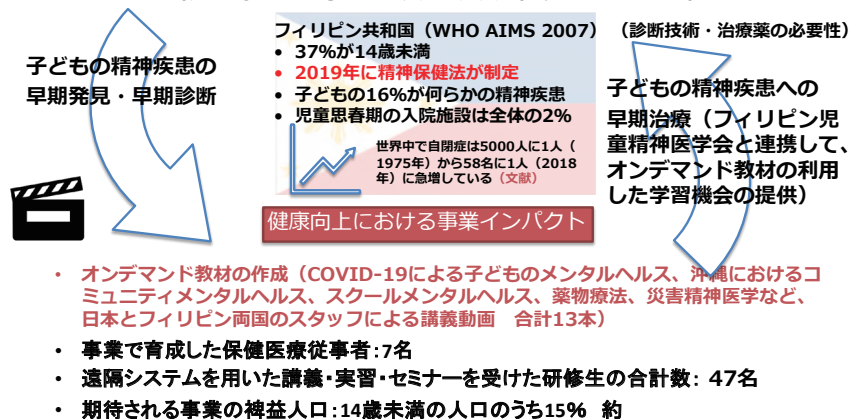
今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画(具体的な数値を記載)	①Web研修での対象者(2回) ②医師(フィリピン児童精神医学会会員)および心理士、ソーシャルワーカー、看護師、保健師、教師などの20-50名。及び、プレテスト・ポストテストで理解度の15%向上	①今回の事業結果を発表し、作成されたレポートもしくは論文が引用されること。 ②本事業を通じてフィリピン国内での裨益効果として、自閉症やうつ病などの精神疾患患児の診察人数及び薬物療法施行例の増加。	①フィリピン児童精神医学会による児童精神医学に関する講習会もしくは、大学、医学会、保健省、教育省などを中心としたChild Mental Health Forumの開催されること。 ②多職種の医療スタッフのネットワークだけでなく、医療、保健、教育など子どものケアについての多機関ネットワークが構築されること
実施後の結果(具体的な数値を記載)	①Zoomを利用してWeb研修を2回開催した。 ②Moodleを利用してオンデマンドで研修会を開催した。教師、心理士、ソーシャルワーカー、看護師、保健師、医師などの202名登録(47名がログインし、そのうち5名が研修終了)。プレテストの理解度が42.9%、ポストテストが83.3%であり、理解度が40.4%向上した。	①今回の事業結果をフィリピン大学の若手研究者とともに2本作成中。 ②本事業はオンライン研修へと切り替えたことで、フィリピン大塚との共同研修は実施しなかった。	①フィリピン児童精神医学会と共同でオンデマンド研修を開催した。また、次年度以降も利用できるオンデマンド研修教材も作成した。 ②フィリピン国内の医療、保健、教育のスタッフのネットワークが構築されることに寄与した。

5

今年度の相手国への事業インパクト

- ・ オンライン研修会開催 (Moodle) : 47名の医療福祉スタッフへの波及効果あり
- ・ フィリピン国内で未発売の抗ADHD薬 (国産) や自閉症の易刺激性を標的症状とするアリピプラゾール (国産) のプロモーション
- ・ COVID-19の影響による子どものメンタルヘルスに関するWebinarの開催



事業インパクトとしては、Forumの開催が最も大きなインパクトであり、健康向上における事業インパクトとして子どもの精神疾患の早期発見・早期診断につながる事業で研修を受けた保健医療従事者の延べ数

97名が得られました。これらは、子どもの精神疾患への早期治療へとつながり、わが国の向精神薬のプロモーションへとつながるものと考えられます。

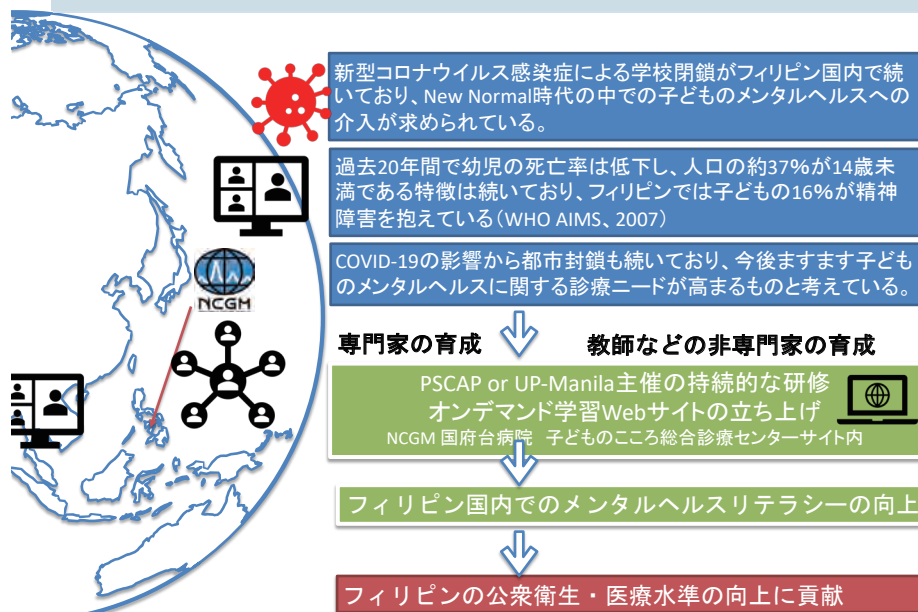
これまでの成果

これまで2017年、2019年、2020年にフィリピン共和国を対象に実施し、医師・保健師・公衆衛生研究者などの保健医療従事者を育成してきている（H29:のべ15名、R1:のべ80名）。また、これらの事業を通じて、フィリピン大学、保健省、教育省が中心となってMetal Health Conference（H29）が開催された（Child Mental Health Forum: COVID-19で中止）。また、自閉症の治療薬の一つである大塚製薬のアリピプラゾールのプロモーションも展開することにつながった。この事業の研修活動については、フィリピン大学と共同で国際学術雑誌にアクトセプトされた（Usami.M,et al.,2018、Estrada, et al,2020）。

今後の課題

- ・ フィリピン児童青年精神医学会と連携して、本事業で研修を受けた人がトレーナーとなって、フィリピン国内で伝達講習を行うこと。
- ・ 児童思春期のメンタルヘルスに関する診療能力の向上は、患者の人権に配慮すると同時に今後急増していく子どもの精神疾患の適切な評価と治療に繋がること。
- ・ COVID-19による学校閉鎖がフィリピン国内で続いており、New Normal時代の中での子どものメンタルヘルスへの介入を検討すること

将来の事業計画



今後の展望としては、中止となった Child Mental Health Forum の再開と研修の継続・拡大を考えており、わが国の沖縄の諸島部におけるコミュニティメンタルヘルスの汎化を目指していきたいと考えています。また、

フィリピン国内の各省及び学会との連携を図り、フィリピン国内のメンタルヘルスリテラシーと医療水準の向上を目指していきたいです。